

第 10 回社会保障の現場からの報告を聞き考える会を開催

学童保育について NPO 法人のびのびキッズ海南の川野さんから話題提供

4月22日（木）に第10回社会保障の現場からの報告を聞き考える会を開催しました。今回は学童保育の現状と課題について学ぶことをテーマに、NPO 法人のびのびキッズ海南理事長の川野英子さんをお招きして話題提供をして頂きました。講師含めて13人が参加しました。川野さんから海南市の学童保育の様子をお話して頂き、和歌山県学童保育連絡協議会の活動についても紹介して頂きました。県の連絡協議会を通じて学童保育に常勤指導員の配置を国に働きかけ、各教室に1人ずつ配置されるようになったということです。指導員の賃金は3年前に時給950円（はじめの半年間は850円）に引き上げられたとのこと。



和歌山市の学童保育が県の連絡協議会に加盟しておらず情報も共有できない状態で立ち後れているという指摘もされました。学童保育にこどもを預けている方から、「入所申し込みしてもなかなか返事が来ない」「今年から夏休みだけの受け入れがされることになったが、早く知らせてほしい」といった要求が出されました。和歌山市大運動実行委員会の対市交渉では学童保育の要求が毎回あがっていますが、なかなか運動にできていません。はじめて参加頂いた方からは「駐車場もないなんて。安全な場所にしてほしい」が感想も述べられました。

最後に、川野さんから、学童保育はこどもらが学校よりも長期に滞在することもある場所なのでいい環境にしていくよう努力して行きましようと呼びかけがされました。また今後、県の連絡協議会にも繋がりますとお約束頂きました。

（感想アンケートより）

★海南市はコロナ禍で休校になった時、学校と連携をとって乗り越えたとお聞きしています。普段からの連携が大事だということで危機の状況にも対応できた証ですね。娘が小1の時、学童を見学に行きましたが条件も厳しく自由さもなかったので断念し近所の祖父宅に預けました（和歌山市15年前位です。）そこから改善されるどころかより劣悪になっている様に思いました。

◎75歳以上の医療費窓口負担の2倍化反対 年金天引き日宣伝活動を実施



県社保協は、定例の年金天引き日宣伝活動を4月15日（木）に実施しました。年金が4月から0.1%引き下げられたことに抗議するとともに、コロナ禍で苦しむ高齢者に追い打ちをかけるような医療費窓口負担の2倍化法案の撤回を要求して行動しました。9人が参加、年金署名18筆、医療署名10筆が集まりました。